



第153号 令和2年11月20日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。

スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツクラブ



スポーツ振興くじ助成事業

特集 学校運動部活動と連携するクラブ

▶▶▶ しわひめスポーツクラブ

▶▶▶ 田布施スポーツクラブ

暴力行為等の根絶に向けた取り組みを行うクラブ

▶▶▶ NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ

特別企画 人材育成に取り組むクラブ

▶▶▶ NPO法人葦崎スポーツクラブ

緊急企画 我がクラブのコロナ対策

▶▶▶ 一般社団法人石垣島アスリートクラブ

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

学校運動部活動と連携するクラブ



しわひめスポーツクラブ

<宮城県栗原市>



運動部活動については、少子化による生徒の減少や、顧問となる教師の長時間労働につながるとともに、競技経験のない教師にとって専門的な指導は多大な負担であり、生徒のニーズに必ずしも応えられていない等の課題があります。

そのため、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定されました。また、今後の部活動改革の第一歩として、休日の部活動の段階的な地域移行が示されるなど、持続可能な部活動と教師の負担軽減の実現が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

スポーツ少年団 8団体、中学校部活動 8団体などが団体会員

栗原市志波姫地区(旧志波姫町)は、小学校1校、中学校1校が行政施設を中心とした1キロ圏内にあり比較的學校と地域が連携しやすい環境にあります。設立当時はスポーツが盛んな町でありながら、社会体育施設は1つしかなく、社会体育事業も学校体育施設を使用するような状況でした。

そのような状況の中、中学校外部指導者や親の会、市町村合併前の志波姫町体育協会、スポーツ少年団を中心に、平成16年3月にクラブを設立しました。

令和2年9月末の会員数は中学生以下204名、高校生以上270名の474名です(団体会員:スポーツ少年団8団体、中学校部活動8団体、一般14団体、ファミリー14家族、個人会員:18名)。

主な活動としては、①楽しみながら色々なスポーツに親しめるスポーツセミナー、②定期的に活動し大会や発表会にも参加し、セミナーの内容をより一層深められるスポーツ教室、③クラブ主催の大会と、志波姫地区社会体育事業の受託をしている各種スポーツ大会、④会員同士の交流の場としてレクリエーション的なイベントや体験会を実施しています。

活動施設は、志波姫体育センター、志波姫公民館、志波姫中学校体育施設(体育館・武道館・校庭・テニスコート)、志波姫小学校体育施設(体育館・校庭)です。その他、クラブハウスのある志波姫体育センターは指定管理を行っております。



部活動部員は全員がクラブに加入 顧問と外部指導者が協力して活動

志波姫中学校では、平成10年10月から平成12年12月まで中学校運動部活動研究指定校になり、部活動と地域指導者の連携に関する研究を行っていました。そうしたことから、市町村合併前より外部指導者を導入しており、教育委員会と学校長の連名で委嘱状を交付された地域の方々が運動部活動の指導者となっております。また、この外部指導者はクラブの指導者としても活動しています。

クラブ設立の際には中学校と協議し、運動部活動の部員は、全員クラブに加入することといたしました。そのため、部活動時間を学校管理下の部活動、それ以外の活動時間をスポーツクラブの活動とし、全ての運動部に外部指導者を配置し、顧問とともに指導に当たっております。なお、部活動時間終了後は、クラブの活動になりますが、顧問がそのままクラブの指導者として当たる部活もあれば、指導者に引き継ぐ場合もあります。

部活動指導計画にクラブとの連携を明記**学校体育施設の利用調整もクラブ側が担当**

志波姫中学校の部活動指導計画にもクラブとの連携に関する事項が記載（別掲を参照）され、毎年5月の新1年生の部活動が決定した後、中学校、親の会、外部指導者で3者合同会議を開催し、部活動はもちろんのこと、クラブの活動も教育の一環であることを確認しています。さらに、学校体育施設開放の利用調整もクラブで行っています。利用する団体は利用希望の2か月前まで申請書をクラブに提出し、希望が重複した場合は調整会議を開くことで、施設を有効利用しています。中学校運動部活動も同様に、時間で学校管理下の部活動とクラブ管理下の活動とを分けて活動計画をクラブに提出しています。また、学校より体育施設の鍵を貸与されており、夜間や学校休業日に利用する場合は、利用団体がクラブから鍵を借用・返却するシステムをとっています。活動や施設の利用でトラブル等があった場合には、学校と連携をとり、当事者の生徒や保護者、利用者と連絡を取り解決しています。

その他、練習試合や大会に参加する際にはクラブ所有の10人乗りワゴン車を無料で貸し出しするとともに、活動に必要なスポーツ用具を毎年提供するとともに、県大会・東北大会・全国大会に出場する際には、校内で開催する決意表明式の際に激励金を贈っています。

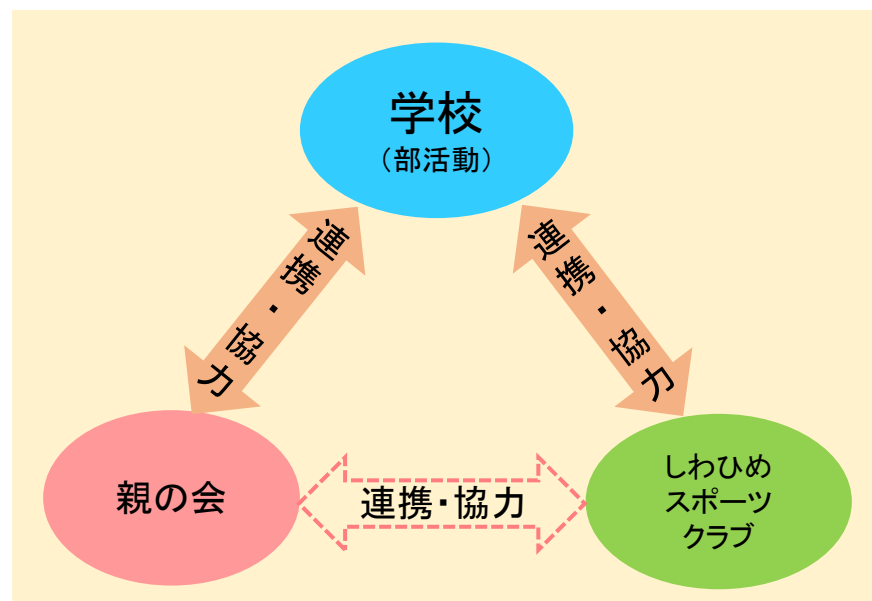
【志波姫中学校の部活動指導計画】(一部を抜粋)

1 目標

- ・しわひめスポーツクラブなど地域連携による活動を推進し、生涯を通じて芸術やスポーツを楽しむ基礎や資質を養う。

2 努力点

- ・普段からあいさつ(返事)、思いやり、感謝ができる生徒の育成を目指し、学校・親の会・しわひめスポーツクラブ等が協力し指導にあたる。
- ・学校、親の会、しわひめスポーツクラブ等との相互連携により支援体制の整備充実を図る。



3 顧問と外部指導者の意思疎通をより緊密に

クラブ設立時から中学校運動部活動と連携して活動しているため、顧問が異動した場合は、新しい顧問にクラブの取り組み内容を説明し、理解を求めています。しかしながら、外部指導者が中心となったことにより顧問と部活・生徒との関わりが希薄となってしまうたり、部活動とクラブ活動の区別を理解していない種目もあり、今後の課題となります。学校とクラブ、顧問と指導者がコミュニケーションを図り、よりよい活動にすることを心がけていきたいと思ひます

学校の垣根を越えたクラブ単位での大会参加が夢

また、中体連の大会に人数が足りないため参加できないケースや、他中学校と合同チームで参加している種目もあります。学校単位の参加ではなく、学校の垣根を越えてクラブ単位でも大会に参加することができるようになればと思います。

さらに、日本スポーツ協会の公認資格保有を指導者の条件とはしていないため、公認資格保有者が少ないのが現状で、この点も今後の検討課題となります。

(しわひめスポーツクラブ クラブマネジャー 相馬 知香)



クラブで貸与しているユニホームを着用して
大会に参加(バレーボール部)

クラブ プロフィール

設立年月日	2004年3月21日
所在地	宮城県栗原市志波姫
運営	会員数474名(令和2年9月現在)、予算規模 9,220万円(令和2年度、指定管理料含む)
特徴	しわひめスポーツクラブは、スポーツ少年団、中学校運動部活動、 体育協会構成団体、スポーツ愛好会等が総合型に理解を示し、それぞれ各種 スポーツ教室として活動しています。
連絡先	〒989-5615 宮城県栗原市志波姫沼崎南沖447 栗原市志波姫体育センター内 TEL 0228-23-2711 FAX 0228-23-2711 E-Mail shiwahime-sportsclub@seagreen.ocn.ne.jp



小学生・中学生・高校生と一緒に活動している卓球教室



決意表明式の際に会長から激励の言葉と
激励金を贈っています。



部活動にも貸与しているワゴン車

特集

学校運動部活動と連携するクラブ



田布施スポーツクラブ

<山口県田布施町>



運動部活動については、少子化による生徒の減少や、顧問となる教師の長時間労働につながるとともに、競技経験のない教師にとって専門的な指導は多大な負担であり、生徒のニーズに必ずしも応えられていない等の課題があります。

そのため、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定されました。また、今後の部活動改革の第一歩として、休日の部活動の段階的な地域移行が示されるなど、持続可能な部活動と教師の負担軽減の実現が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

休部・廃部の危機にあった中学校部活動をクラブが救済

「誰もが、何時でも、どこでもいつまでも」各自の興味・目的に応じてスポーツに親しめるようにするために発足しました。また、週休二日制における子どもたちのスポーツの受け皿としての環境整備のために設立しました。地域に根差したスポーツクラブです。

活動拠点は、田布施町スポーツセンターに集中しており、活動がしやすくなっています。幼児から高齢者までの活動プログラムと、休部・廃部の危機にあった中学校部活動の種目も取り入れています。令和2年9月末の会員数は中学生以下144名、高校生以上187名の331名です。

運営13種目のうち水泳、弓道、サッカーの3種目が部活動

現在運営している13種目のうち10種目エンジョイ志向のスポーツ種目で、ストレッチ体操・レクリエーションを行ったり、バドミントンやバウンドテニス等、気軽に実施できるメニューを指導者の下で活動しています。残りの3種目は競技志向の種目で、水泳、弓道、サッカーがあります。これらの種目はいわゆる部活動で、大会に出場することを目指しています。

現在は、年度初めに会員の継続入会や新規入会を募り、会員数400名を目指して頑張っています。しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、活動ができない状態が続き、会員募集もうまくいかない中、継続会員さんのおかげで、どの種目も昨年並みの会員数で活動することができています。エンジョイ志向の種目には高齢者が多く、健康維持のために取り組んでいます。競技志向の種目は、試合が中止になり、目標となるものがなくなっても、再開後は休まず活動しています。



田布施スポーツクラブの案内看板
13種目とスポーツクラブ主催の水泳教室を紹介しています。第1体育館と第2体育館に掲げています。
2年前に新調しました。



中学生サッカークラブの活動風景。
スポーツセンターに集まりゴールを準備。終了時グラウンドの整地をします。年間を通して16:30～の活動になります。

2 教育委の要請で部活縮小対象の水泳と弓道を受け入れ

クラブが設立した頃、中学校の生徒数減少に伴い、部活動数縮小の検討がなされ、水泳部と弓道部がその対象となりました。教育委員会から田布施スポーツクラブで部活を受け持つと依頼されました。当初は体育協会の加盟団体であった水泳部と弓道の弓友会が引き受け、部活動として続けることができるようになり、田布施スポーツクラブ設立後は、クラブの一種目としてスタートしました。

スポ少卒部生の受け皿としてジュニアサッカーを創設

また、平成25年にスポーツ少年団でサッカーをしていた子どもが中学生になり、田布施でやりたいという声を受け、田布施スポーツクラブ内にジュニアサッカークラブが設立されました。当時ジュニアサッカークラブに入った生徒の親が指導者として関わるようになりました。

以来、水泳、弓道、サッカーは試合に勝つことを目標に活動しています。活動場所は、主に田布施町スポーツセンターで行っていますが、中学校には、それぞれの部活担当教師がおり、連携を取って活動しています。

学校側と当クラブが年度末に定期会合 教頭も参加

学校の部活動は、部員数割で部活活動費が分配されていますが、スポーツクラブの3つの種目も部活動と認めてもらっていますので、学校の部活動担当と連絡を取り合って、活動費を器具の購入などに充てています。中体連の大会参加費や旅費については学校側の負担で参加しています。

学校側と田布施スポーツクラブは年度末に定期的な会合を開催しています。学校とスポーツクラブの両方の担当者が一堂に会し、今年度の反省と、来年度の新入生の入部について打ち合わせをしています。学校側からは、教頭先生も参加していただいています。

3 経験とスキルを併せ持つ指導者の常時確保が課題

競技経験以外に求められる生徒指導上の対応力

学校部活動と連携する上での問題点として一番に挙げられるのが、指導者の問題です。特にサッカーは、競技経験者の若手は仕事を持っているため、部活動の時間帯に指導することが難しいという事情もあり、指導者探しが課題となっています。現在は、世話人の方が何とか探し出して指導をお願いしていますが、いつまで続けられるか先が見えない状況です。また、どの種目の指導者もボランティアでやっていただいております、指導の後継者不足も懸念されています。さらに、指導者は技術があれば誰でもいいというわけにはいきません。生徒指導上の問題にも対応できる人材でないと任せられないからです。

外部活動時の事故対応で責任の所在が不明確

部活動の場合、学校で行っているから事故が起こっても養護教諭がいて、責任は校長が取るという環境が整っています。しかし、外部活動であるクラブの場合、もしもの時の対応・責任は誰が担うのか明確となっていない中で活動しています。部活動改革の案の中には、事故が発生した場合は、運営主体や大会の主催者が責任を負うとなっています。現状では当クラブの規約に則って活動しており、責任の所在のところで、課題が残っていると思います。

「会員数増」と「会費による自主運営」が今後の目標

また、予算的な裏付けがほとんどない状況で、備品やボールなどの消耗品をどのように購入するのかははっきりしていない点も課題です。現実には各種目で、会費の徴収や中学校から配分されるクラブ活動費をそれに充てて活動しているのが現状です。

現在クラブの運営は、会費と町や他の団体からの補助や、事業への参加費で何とか活動できています。そのため、今後の展望は、会員数を増やし、会費による自主運営ができるようになりたいです。悲しいかな、補助がないと運営できないのが現状です。

(田布施スポーツクラブ 会長 鳥越 昭次)



中学生水泳部と大人の方が一緒に活動している場面。温水プールではないですが、屋根があるので、天候に左右されず活動できます。



中学生弓道クラブの活動風景。町の弓道場で活動しています。この場面は大会的な雰囲気で行った時のものです。指導者も混ざっての活動です。

クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年4月14日

所在地 山口県熊毛郡田布施町麻郷

運 営 会員数331名(令和2年10月現在)、予算規模 90万円(令和元年度)

特 徴 「誰もが、何時でも、どこでもいつまでも」各自の興味・目的に応じてスポーツに親しめるようにするために発足しました。また、週休二日制における子どもたちのスポーツの受け皿としての環境整備のために設立しました。地域に根差したスポーツクラブです。

連絡先 〒742-1513 山口県熊毛郡田布施町麻郷1293-11

TEL 0820-52-3832 FAX 0820-52-3832

E-Mail sportscenter@town.tabuse.yamaguchi.jp

特集

暴力行為等の根絶に向けた取り組みを行うクラブ

NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ ＜愛知県武豊町＞

総合型クラブが、地域スポーツ文化の豊かな享受の場として充実・発展していくためには、スポーツ指導の現場において、暴力の根絶に対する共通認識を一層高めるとともに、暴力、ハラスメントおよび指導者の権力に基づく精神的な追い込みなどの行き過ぎた指導が行われていないかを改めて見直し、悲劇を未然に防ぐことが不可欠です。

そこで今回は、暴力行為等の根絶に向けた取り組みを行うクラブをご紹介します。

1 クラブ概要

幼児・高齢者を中心に35教室を展開

前身の武豊町スポーツクラブは、スポーツ教室をはじめイベント企画や指導者の育成・支援活動を行い、住民のスポーツ活動を支えていくことを目標に、総合型地域スポーツクラブとして平成21年3月に発足しました。平成23年のNPO法人化後は幼児や高齢者などを中心に事業の強化を図りました。令和2年度は35教室を展開しています。また介護予防事業の受託や、近年では指定管理者として社会体育施設を管理・運営しています。有給スタッフは総勢20名を超え、部門別により日々の運営に知恵を出し合っています。

教室申し込み時のオンライン化を実施ーコロナ禍対応

新型コロナウイルス感染防止に伴い、今年度からは教室の申し込みのオンライン化を実施するなど社会情勢に伴う変化にも果敢にチャレンジしています。



＜ 朝活 ＞

当日参加OK！新型コロナ対策もしやすい屋外で6:30スタート。今年度から企画し心配しましたが15名前後の参加者で大賑わい。野球場の活用方法を検討中...



＜ 健康麻雀倶楽部 ＞

県内の他クラブで実施していたものを真似て開催。あっという間に満員です。現在はシールドを自作し、間もなくリスタートをします！

2

暴力行為の未然防止のため毎年指導者研修会を開催

正会員による3部会制でクラブを運営

現在のクラブは、「事業部会」、「研修部会」、「総務財務部会」の3部会制を採用し、いずれの部会も正会員がメンバーとなりクラブの運営に携わっていただいております。正会員は「自主的にクラブの運営に携わっていただける方」ですので、自主的な挙手制で各部会への就任をお願いしております。

暴力行為根絶を担う「研修部会」が指導者研修を実施

暴力行為等の根絶に向けた取り組みの主な担当は「研修部会」です。同部会では、クラブ立ち上げ時から毎年様々な形で指導者の研修を実施しています。内容は、リスクマネジメント、応急手当やAED訓練、実技指導などで、平成30年度以降の具体的な研修内容は以下の通りです。

【平成30年度】

「リスクマネジメント」	＝身近なもので応急処置 他 ストレッチ・テーピング 指導者の資質 他 アンガーマネジメント 他
「救急手当講習」	＝AED等
「指導者講習」	＝コーディネーション(講義・実技)

【令和元年度】

「リスクマネジメント」	＝事例から学ぶリスク回避 ストレッチ・テーピング アンガーマネジメント アンガーマネジメントとヒューマンエラー
「救急手当講習」	＝AED等
「指導者講習」	＝コーディネーション(実技)

【令和2年度】

「リスクマネジメント」	＝事例からみるハラスメント 怒りのコントロール よく発生するエラーの防止表 ミスを起こす要因 起こりがちなエラー
「救急手当講習」	＝AED 身近な処置法
「指導者講習」	＝コミュニケーション ～主体性～ コミュニケーション ～個性～

★研修を受けた指導者の感想★

- ・「スポーツは競技至上主義だけでなく楽しむことが根底にあり、男女差別・上下区分なく等しく行うことを肝に銘じたいです」
- ・「相手が不快に思えばハラスメントになる。難しいなと思いました」
- ・「自分だけでなく所属するスクールの指導員と共有したいと思いました」
- ・「自分の言動に注意が必要だと感じました」

研修受講者が教室で指導することをルール化

クラブ発足時から指導者の指導意識と質の向上を目指し「無償ボランティア」に頼ることはせず、きちんと研修を受け資格を有する指導者が教室運営にあたるというルールを徹底してきました。公認クラブマネジャーを中心に、外部にも講師を依頼するなど様々なバックボーンを持った先生方を招き、非常時の対応と指導の質の向上はもとより、暴力の内容やそれによって起こる悲劇・リスクマネジメントについて習得する場として毎年研修会を実施しています。関係団体や保護者にも研修会の内容を事前に周知するとともに、研修会の様子をホームページやSNSなどを通じて外部に発信することで、スポーツ関係者のどなたでも参加していただけるよう取り組んでいます。

3

暴力根絶に向け、これからのクラブ

2名のクラブマネジャーが、現場に目配りし迅速に対応

様々な暴力行為等への防止策について毎年ブラッシュアップして研修を行います。やはり現場では手の行き届かない場面やハプニングはつきものです。そのため、研修ではより現実に近い内容を厳選して行うことを心がけています。現在、クラブ事務局で公認クラブマネジャーの資格保有者は2名となり、指導者が困った場合などにはすぐに対応が取れるよう態勢を整えています。

当クラブの関係者だけでは気づかない問題もあります。それに対処するために、愛知県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（SCネットワークあいち）の事業に積極的に参加し、情報交換を行うなど、日頃も電話やEメール、SNSなどを活用しながら日々の情報収集に努めています。

小さな暴力も見逃さないよう意思疎通を図る

暴力は手や道具での暴行だけでなく、言葉での暴力、態度での暴力など様々なものが考えられます。事務局では申し込み時や問い合わせ時などに、何か問題や相談があれば、いつでもクラブにご連絡いただけるよう案内をしています。小さなことを見過ごすことのないようコミュニケーションを怠らず、職員・指導者・関係者と共にクラブの発展に寄与していきたいと思っています。

今後も内容の濃い研修を継続

これまでは関係者の意識が高いためか、クラブ内で大きな暴力行為等は起きていません。しかし、今後も内容が濃く意義深い研修を継続することで、知識が豊富で理解のある指導者を地域や学校、全てのスポーツ関係組織・団体にも提供していき、「スポーツは楽しい」と実感していただけるようクラブとして努力してまいります。

まだまだ小さなクラブですので、住民の皆様にスポーツ・文化の機会を提供し続けていけるよう、全国のクラブの皆様からの情報提供をお待ちしております。

(NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ クラブマネジャー 植田 智紀)



< 陸上教室 >

小学生対象で大人気教室！全国大会で好成績を残すなど実績もピカイチ。幼児向け親子かけっこ教室も短期で開催し選手の育成に励んでいます。



< 体操サロン >

町役場からの介護予防事業。新型コロナで中止後、11月から屋外で開催します。指導者が指導しやすいように機材はなるべく簡単に使えるように工夫しています。

クラブプロフィール

設立年月日 平成21年3月15日（平成23年10月28日NPO法人登記）

所在地 愛知県知多郡武豊町大字東大高字清水

運営 会員数630名（令和2年10月現在）、予算規模 8,960万円（令和2年度）

- 特徴**
- ・全世代に提供できる各種事業
 - ・成人向けの教室は1年間の入会と飛び入り参加も可能
 - ・スポーツだけでなく介護予防事業や健康麻雀倶楽部を実施
 - ・指定管理者として稼働率の低い施設での事業展開

連絡先 〒470-2521 愛知県知多郡武豊町大字東大高字清水128
武豊町総合体育館内
TEL 0569-84-1100 FAX 0569-84-1101
URL <https://www.taketoyo-sc.jp>
E-Mail info@taketoyo-sc.jp

特別企画

人材育成に取り組むクラブ



NPO法人韮崎スポーツクラブ ＜山梨県韮崎市＞



活動基盤・活動環境をより充実させ、持続可能な総合型クラブの運営を目指すには、効果的な事業計画を企画・立案できる人材が求められるとともに、常に先を見据え、異業種・異業態も含めた広い視野と多様性を持つ人材の育成・確保をしていくことが重要です。

そこで今回は、クラブ関係者や行政のみならず、地域企業とも連携し、人材育成に取り組むクラブについてご紹介します。

1

クラブ概要

韮崎市は平成13年度に文部科学省より「総合型地域スポーツクラブ地域指定」の認定を受け、行政主導型の「総合型地域スポーツクラブ」として当クラブが産声を上げました。平成16年4月に特定非営利活動法人韮崎スポーツクラブに移行し、スポーツ文化の創造を通じて、「明るく豊かなまちづくり」と「会員一人ひとりの自発的・自主的な生涯スポーツライフ」の形成を目的に活動しています。

現在、スクール種目が21コースとサークル種目が3コースあり、幼児から高齢者まで幅広い年齢層が、自分の体力・年齢・レベルに合った種目をいつでも、いくつでも参加することができるクラブです。

2

行政や他団体と連携・協力

クラブ役員は幅広い人材で構成→情報収集と人的つながりでメリット

- 創設以来、韮崎市営体育館内に事務所を置き、市教育委員会のスポーツ振興課職員と同じ事務所で活動等しているため、常に市の行政サイドと連絡調整等を行うことができている。また、クラブの役員として、市議会議員に加え、市のスポーツ協会やスポーツ推進委員協議会の主たるメンバーに関わってもらっているため、地域のスポーツ振興や推進に関しての情報等が常に得られるだけでなく、人的なつながりも保たれています。



- 韮崎市保健福祉センターで毎年行っている事業「健康アップ教室」と連携して、同教室を卒業した翌年度から当クラブのスクール種目として活動できる“場所”を提供しています。
- 他のスポーツ団体・企業に対してもスクール事業の指導を行っています。こうした場を確保することで、クラブ側にとっても人材育成・発掘の場所創りにつながっています。

指導者の派遣で貴重な経験を

- クラブの指導者については、地元フットサルチームのスクール種目へ運営指導者として派遣することで多くの経験を積むことや、また（一社）ヴァンフォーレ甲府と連携・共同し開催しているスクール等の種目には、互いの指導者が協力し担当することで、相手の様々な指導法を学ぶきっかけができることも人材育成につながっていると考えます。ひいては将来的にクラブ運営を担う存在に成長してほしいと考えております。

小学校現場での質の高い指導に向け、SC山梨との研修会・情報交換に参加

- 昨年から新規事業として実施されている、県教育委員会の「もっと楽しい体育授業で体力アップ！」事業に、指導者の一員として参画しています。本事業は、県内の子どもたちの体力向上に関して、「投げる」ことに焦点を絞り、小学校現場に指導者としての専門的な資質を有した総合型地域スポーツクラブの指導者を派遣するという事業です。

また本事業は、小学校現場での効果的な指導は質の高い外部指導者が行い、より良い体育学習を県内に広めるという目的も持っています。そうした目的を達成するために、山梨県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（SC山梨）が、本事業に参画するクラブを対象に研修会や情報交換をしており、指導者だけでなく、クラブの更なる質の向上につながることを考え、こうした研修の場などにも参加しています。

ただ、クラブ側として色々と工夫しながら指導者を育ててきたつもりですが、せっかく指導者として質が向上しても、結果的に外部に行ってしまう可能性を危惧しながらも育成し続けなければならないことが不安材料となっています。



VFヘルスアップスクール
毎週金曜日PM1時～



U6サッカーフェスティバル

3

人材育成に取り組むことで得た効果

指導者の姿勢・熱意→県の信頼度アップ→学校体育との連携

県教育委員会の「もっと楽しい体育授業で体力アップ！」事業では、SC山梨や地域を大切に活動を積み重ねてきている総合型地域スポーツクラブの存在だけでなく、そこにいるスポーツ指導者の姿勢や熱意も県側から認めていただけており、当クラブへの信頼度を得ることで学校体育との連携にも一役を担うことが実現できています。

小学校事業の事前研修会で指導の在り方を学ぶ—外部指導者

外部指導者として小学校の事業に関わるために、事前の研修会に参加し、より良い授業の方法や内容、また、子どもたちへの運動やスポーツの指導の在り方等を学び直したりしています。こうした時間や機会を大切に作る姿勢を保つことは、総合型地域スポーツクラブを今後続けていくためにも必要なことだと感じています。毎日の取り組みや教室の運営等に追われるばかりでなく、そうした学びや指導を見直すことは重要なことだと思います。

他クラブの若手指導者とも連携し、クラブ運営等で意見交換

同じ地域で、スポーツクラブを営み、総合型地域スポーツクラブへの展開を考えている指導者とも連携しています。他のクラブの代表は、比較的若い指導者ですので、「どのように展開していけば良いのか」、「収入の面で心配はないか」などクラブ運営上の話をしております。今後も、教室等を一緒にやりながらアドバイス等ができればと考えています。そうした人的なつながりが広がったり深まったりすることも大切なことだと実感しております。



ACPを活用した子ども体力向上プログラムのチラシ



わくわくスポーツレクリエーション
第2・第4土曜日AM10:30～



拠点施設の整備を機に、市の拠点となる「場所づくり」に寄与

クラブ立ち上げから3年は行政主導でしたが、その後は自分たちで自主運営を心掛け、“総合型地域スポーツクラブ”だからこそ、市からの受託事業2つ、韮崎市サッカー協会受託事業1つ、企業と連携した事業3つの計6事業を行うことができ、地域の健康づくりの拠点ともいえる“場所”を提供することにつながっています。

本クラブの拠点となっている、「韮崎市営総合運動場」が「整備基本計画」にともない、全面的にリニューアルされることになっています。施設は老朽化が散見されるため、市営総合運動場整備検討委員会を設け、整備に向けて様々な角度から議論を重ねたほか、利用者アンケート調査や団体ヒアリングを実施し、「市営総合運動場整備基本構想」を策定いたしました。

韮崎スポーツクラブとして、韮崎市の地域スポーツの「拠点」となって活動等を続けてきた自負を持ち、また、一緒に取り組んできた関係者と同じ思いを持って、この計画が韮崎市における地域スポーツの実情に合った有効なものになっていくよう連携・協働していきたいと思っています。民間の資本や知恵を得ながらという計画ではありますが、施設運営の拠点となり得る担い手になって韮崎市の拠点となる“場所づくり”にも寄与していきたいと考えております。

(NPO法人韮崎スポーツクラブ クラブマネジャー 平賀 潤)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成13年12月9日(平成16年4月21日NPO法人登記)

所在地 山梨県韮崎市

運営特徴 会員数:372名(令和2年9月現在)、予算規模1000万円(令和元年度)

- ・自分の体力や都合により、いくつでもいつでも参加しやすいスクール
- ・子ども体力向上プログラムでは、市スポーツ推進委員さんのご指導の中、いろんなスポーツに親しみながら体力向上を目指しています。

連絡先 〒407-0024 山梨県韮崎市本町4丁目9-2
TEL 0551-21-2255 FAX 0551-22-0498
E-Mail nirasupo@gaea.ocn.ne.jp

 緊急企画**我がクラブのコロナ対応** **一般社団法人石垣島アスリートクラブ**
<沖縄県石垣市>

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら、前を向いて積極的に活動しているクラブについてご紹介いたします。

 1 現在のクラブ状況**南の島の温暖な気候 トップ選手の合宿誘致と交流を推進**

当クラブは、平成19年に個人の陸上クラブとして立ち上げ、メンバー増加に伴い平成29年に法人化して総合型地域スポーツクラブとして活動の幅を広げました。

南の島の温暖な気候で一年中屋外でのスポーツを行うことができます。また、冬季期間は有名トップアスリートたちの合宿地として活用されており、クラブとしても合宿誘致や選手とクラブ会員の交流を積極的に行っています。

7月に開催された第66回全日本中学生通信陸上大会においては、当クラブ所属の選手が女子走高跳の日本ランキング1位、そして10月に開催された全国中学生陸上競技大会2020にて見事全国2位に輝きました。

- 会員数:348名(10月末現在) 石垣市人口49,000名
(会員内訳=幼児58名、小学生249名、中学生27名、高校生6名、一般8名)
- 種目:陸上競技・幼児体育・児童スポーツ教室・アルティメット・ハンドボール・
タグラグビー(親子参加可)

web配信とLINEグループトークを実施ーコロナ禍の休止期間

石垣市では、離島地区であるためコロナ発生当初は影響も少なく、3月末まではクラブ活動も実施していました。沖縄県内感染者の拡大を受け4月7日から小中学校の臨時休校が発表されると、クラブ活動を休止せざるを得なくなりました。

休止期間中は、web配信による自宅でできるトレーニングの紹介や、中学生メンバーへは各自で取り組める練習メニューの提供を行いました。その際、選手同士の気持ちのつながりを保つためにLINEのグループトークを活用し、それぞれの練習状況の報告会なども行いました。この期間中は全会員を休会扱いとし、会員へは月謝を一部返納するなどの措置をとりました。

民間ホテル内の広場を活用し練習を再開

5月になり学校再開に伴い、スポーツ活動の再開も条件付きで認められるようになりましたが、公共施設が使用できなくなり練習会場を失ってしまいました。その際に、民間のリゾートホテルから「ホテル内芝生の広場を練習に使用していいですよ」との、嬉しいご協力を得ることができ、1クラス当たりの人数制限、練習時間の短縮、感染予防対策の徹底などに気を配りながら練習を再開することができました。この時点で休会としていた会員の50%以上の方が戻ってきました。

休会中の退会者は5%程度 再開後は会員増

コロナの影響でクラブを退会された方は全体の5%程度、それ以外の会員は活動を再開しています。さらに活動再開後に入会した方を含めると、会員数は増加している状況にあります。持続化給付金の活用も行い、今後のコロナ感染対策も考慮しつつ現在はオンライン化も進めながら活動を継続しています。

2 活動再開にあたってのポイントと対策

定期開催していた記録会を復活させる

【ポイント】DX(デジタルトランスフォーメーション)

毎月定期開催していた「石垣島アスリートクラブ記録会」(幼児は50m、小学生以上は100mを実施)は毎回200名近い参加者があり、クラブ会員は1ヶ月間の練習の成果を発揮し、家族は子どもたちの頑張りを応援できる機会として会員が楽しみにしている活動の一つでした。コロナ禍でこの事業規模だと一度に集まっての開催は困難であるとされていました。しかし、開催を中止にするのではなく、記録会の開催方法について大きな見直しを図りました。

『どうすれば200名の参加者が密にならずに記録会を実施できるか?』という「開催する」ための問を立てることからのスタートでした。密の問題点としては、これまでは受付で人が集中してしまうことや、参加者の組分けから記録会の実施、自身の記録測定後は友達の応援など3~4時間ほど会場内に滞在していたことが挙げられます。

【対策】

1. googleフォームを活用した事前エントリー制

参加者はGoogleフォームで事前エントリー（受付）を済ませ、スタッフ側で指定した開始時間の10分前に準備を済ませてから会場に集合し、記録測定後はすぐに帰宅してもらいました。必要最低限の滞在時間にする事で、参加者が密になる環境を防ぐことができました。

2. 記録会の測定にiPadアプリ(Coach's Eye)を活用

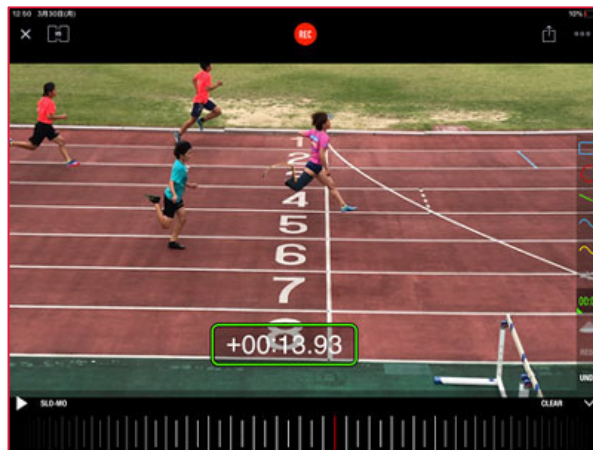
記録測定員の人数を大幅に減らし、ゴール地点での密な状況を緩和しました。iPadアプリを利用したことによる測定時間の短縮と事前エントリー制にしてスタート時間を事前に指定したことでスムーズな運営につながり、記録会の運営時間も60分ほど短縮することに成功。15名ほどで対応していたスタッフ人数も半数以下へ縮小でき、密の回避からスタッフ負担軽減、運営のスリム化まで実現しました。

3. 記録結果をLINEグループで共有

これまで看板などの掲示板で記録結果を公開していましたが、LINEグループを活用することで、保護者もタイムリーに情報にアクセスできるようになりました。

4. 補助事業の活用で、さらなる運営改善を図る

記録会の運営については、よりスムーズに、より多人数にも対応できるよう運営やシステム改良を考えています。そのため日本スポーツ協会の「スポーツ活動継続サポート事業」に申請している状況です。



Coach's Eyeを使った記録測定。パラリンピアンで世界
パラ選手権金メダリスト中西麻耶選手と100m勝負!!

段階的に活動を再開するにあたり、民間施設を活用

【ポイント】 宿泊者がいないホテルの空き敷地を活用

当クラブと協力して冬季期間中に県外からのスポーツ合宿の受け入れをしていただいている宿泊ホテルに相談したところ、コロナ禍の子どもたちの練習会場としてホテル内の敷地を提供いただけることになりました。これまでホテル側に選手の宿泊を積極的に紹介できたこともあり、ホテルからも「クラブに協力します」との快い了承を得ることができ、公共施設以外にも練習会場として有効活動ができるという可能性を発見できました。

ACPの活用で生まれた「クラブ活動の周知」「入会者増」などの相乗効果

【ポイント】安全に安心して練習に参加できる場の提供

アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）のおかげでクラブ会員以外の市民にもクラブ活動を理解・体験してもらえる機会を創出できました。島内の全児童に3,500枚のACP参加呼びかけのチラシを配布。裏面はクラブの紹介文を載せることで、総合型地域スポーツクラブとして活動していることを周知できました。実際に多くの参加者が集まり、クラブ入会にもつながっています。

また、実技指導の助手として、クラブスタッフ以外の地域の方に協力していただくことで、スポーツ指導の楽しさと石垣島アスリートクラブの活動を知っていただき、指導者育成への足がかりをつくることができました。また、日本スポーツ協会の「スポーツ活動継続サポート事業」を活用して、練習器具をそろえることもできました。



ACPプログラム。みんなで元気に宅配便ゲーム



スポーツ活動継続サポート事業で計画している測定システムの構築（構想）

3 取り組み後の反響

【取り組み実施後の声】

参加した子どもたちの声

- 自分の出場時間や一緒に走る選手が事前に分かるのでやる気が出た。
- 記録会の時間が短くなって楽になった。

保護者の声

- 子どもの走る時間が事前に分かり送迎などがやりやすかった。
- 最初はエントリー方法が慣れていなくて、申込みを忘れてしまったが、今は慣れてきた。
- 幼児の子とお兄ちゃんのスタート時間を調整してもらうこともできて、会場に長時間いなくてよいので助かる。

- 施設が利用できない期間は子どもたちが家に閉じこもっていて、とってもストレスを感じている中、「短時間でも練習をさせていただけて、子どもたちが元気になった」というような保護者からの声が多かったです。(スタッフ所見)

関係機関からの声

- 地元の陸上競技協会からは、石垣島アスリートクラブの記録会で行っているシステムを利用して、中学生の大会運営を手伝ってほしいという依頼がありました。
- ホテルではレストランが営業自粛となっている中、子どもたちの送迎に来た保護者の方がホテルで販売していたお弁当を購入して帰ってくれることもあり、ホテルの方からもお礼の言葉をいただきました。

【取り組み実施後の事務局側の声】

大変だったことやリスク(デメリット)

- 事前エントリーシステムの集計やスタートリスト作成など、事前に行う準備事項が増えました。スタッフもシステムに慣れるまではミスもあり、何度もプログラムを作り直すなど苦労しました。
- 練習時の密を回避するため、運営の少人数化に向けてクラスの細分化を行いました。小規模クラスを数多く回す運営方法になり、担当コーチには通常より長時間のクラス運営をしていただくことになりました。
- 民間施設(ホテル)を利用して活動を始めた際、他の団体が公共施設を使えないため、「どうしてあのクラブだけ活動しているのか？」という声も聞こえてきました。このときは無理に理解を得ようとはしませんでした。その声を解消しようということではなく、「自分たちのやっていることに自信を持って、きちんと感染対策をして実施していこう」とクラブスタッフ内で確認を取り合いました。

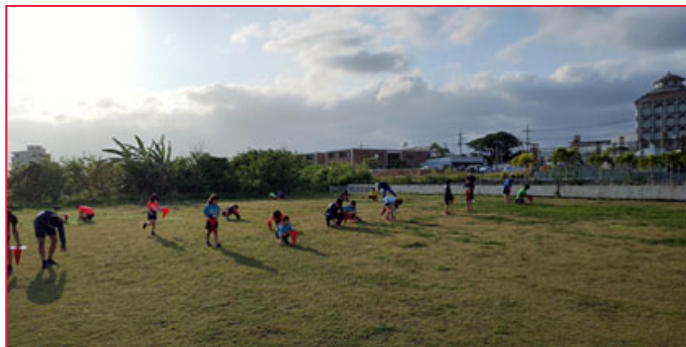
リスクを引き受けたことに対するリターン(メリット)

- DX(デジタルトランスフォーメーション)への挑戦により、全体的にはスタッフにかかる負担はかなり減少しました。
- 記録会当日の運営時間が60分ほど短縮できました。
- 課題に対して思考停止するのではなく、自分たちで考えて行動した結果を正解にしていくスキルが高まりました。スキルという一つの経験値が積めたと思います。ここに対応していなければ、アプリを活用した記録会や活動手法はまだ先だったのかもしれませんが。リスクをとって挑戦することで活動場所や手法の選択肢が増えました。

- もちろん世間からの風当たりが強くなることも想定していました。しかし活動しないリスクと活動するリスクを比較し、当時の状況としては、子どもたちに運動機会を提供することが必要だと判断しました。もちろん雇用型で行っているクラブ形態であることから、活動が完全に止まることは、クラブやスタッフにとって死活問題でもあります。結果的には活動も評価され、会員数はコロナ禍休止以前よりも増えています。
- 今、まさに、それぞれの業界や団体がそれぞれのできることを、やるべきことを考えて課題を乗り越えようとしています。大事なことは、自分たちで考えることです。そのためにはリスクを想定し、対策を用意し、起きている課題(コロナで活動ができない)に対して、知識や知恵をこらし、工夫することや早急な意思決定することが大切だと思います。



ホテルのテニスコートがハンドボールコートにピッタリの大きさでした。



練習後にはみんなでホテルの雑草取りも行いました。

4

今後のクラブ運営について

満足度の高い大会運営への支援を推進

離島など、小さな島では大会の運営をするにもスタッフ不足、審判員不足などで陸上競技協会も大会運営が困難な状況にあります。今回チャレンジしたDX(デジタルトランスフォーメーション)による記録会運営のノウハウを活かし、地域での子どもたちが気軽に参加できる体制づくりや、参加者の満足度を高められる大会を創り上げていくための支援を進めていきます。

多くの方が気軽にスポーツにチャレンジできる環境づくり

やはり運動は動物本来の基本的な活動だと思います。自粛ムードにより身体よりもメンタルの調子が崩れた人の方が多かったと思います。

心と身体活動、コミュニティーというのは、健康の定義の要素でもあります。私たちのクラブは、スポーツをする機会の提供により、人と社会とのつながりを創っていきたいと思います。そのためにも気軽にスポーツができる環境づくりをこれからも進めていきます。

(一般社団法人石垣島アスリートクラブ 代表理事 新谷 敦史)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成19年8月8日(平成29年8月8日法人登記)

所在地 沖縄県石垣市

運営 会員数350名(令和2年11月現在)、予算規模1,000万円(令和元年度)

特徴

- ・離島地域でリソースは限られた中、受益者負担で収益を生み出し雇用型で取り組んでいる。
- ・地域特性を活用した合宿誘致やトップアスリートと会員の交流も積極的に実施。
- ・クラブ運営や大会、記録会のDX化に着手

連絡先 〒907-0003 沖縄県石垣市字平得189番地
 TEL 090-8293-5938 FAX 0980-87-0898
 URL <http://npoi.ac.rdy.jp/index.html>
 E-Mail i.athlete.2007@gmail.com



助成金情報

ノエビアグリーン財団 2020年度助成事業

【実施団体】（公財）ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

【申込期間】 2020年12月1日（火）9:00～2021年2月26日（金）正午12:00

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 2021年度助成金

【実施団体】（公財）ヨネックススポーツ振興財団

助成金交付対象は、青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施している団体とします。

【申込期間】

前期 対象期間：2021年4月～9月および2021年度の年間を通じた事業

申請期限：2020年12月21日（当日消印有効）

交付決定：2021年3月1日（予定）

後期 対象期間：2021年10月～2022年3月の事業

申請期限：2021年6月21日（当日消印有効）

交付決定：2021年8月31日（予定）

様式をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

J-STARプロジェクト 4期生エントリー&SNSキャンペーン募集中

“スポーツで自分の可能性に挑戦する国家プロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（J-STARプロジェクト）」のエントリー受付を、オリンピック競技は11月、パラリンピック競技は10月からスタートしています。

今期は対象年齢を小学校6年生～20歳までに拡大（パラは年齢上限なし）、対象競技もオリンピックはウエイトリフティング、7人制ラグビー、トライアスロン、バスケットボール、ハンドボール、ビーチバレーボール、フェンシング、ボート、ホッケー、ボブスレー・スケルトン、陸上競技、リュージュの計12競技、パラリンピックは全28競技に大幅拡充！

自分の可能性に気づいている子どもたちはほんのわずかしきありません。
そんな思いから、J-STARプロジェクトでは、「きみの可能性は、きみの想像以上だ。」を今期のテーマに掲げました。ただ、子どもたちだけでは、その一歩を踏み出しづらい。そんなとき、周りにいる大人が背中を押してあげることができたら…子どもたちの可能性は無限大に広がります。
ぜひ、日頃、総合型スポーツクラブで活動している子どもたちが自分を知る一つの機会として、J-STARプロジェクトをご活用ください。

プロジェクトの詳細はこちらをご覧ください

https://www.j-star.info/?utm_source=qr-cord&utm_medium=06&utm_campaign=06

J-STARプロジェクト公式SNS

Twitter : @JSTAR_PROJECT https://twitter.com/JSTAR_PROJECT

Instagram : @jstar_project https://www.instagram.com/jstar_project/

Facebook : @JSTAR.PROJECT <https://www.facebook.com/JSTAR.PROJECT/>

SNSキャンペーンも同時開催中！（お子様から大人の方までどなたでも参加可能！）

<https://www.j-star.info/sns-challenge2020/>

JSPO-ACPと「HIMAWARIちゃんねる」とのタイアップ動画を公開しました

当協会では、コロナ禍にあっても子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かすことを促すべくアクティブ・チャイルド・プログラム（JSPO-ACP）の活用を展開しております。その展開の一環として、子ども向け人気Youtuber「HIMAWARIちゃんねる」とタイアップした動画を公開しました。

動画はこちらからご覧ください

<https://youtu.be/YsjahfsjJN0>

JSPO-ACPの公式ページはこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/index.html>

※アクティブ・チャイルド・プログラムは、子どもが楽しく積極的に遊ぶ中で、スポーツ活動の基礎を培うプログラムとして、当協会が制作いたしました。



<「HIMAWARIちゃんねる」とは>

このチャンネルはキッズや親子で楽しめるファミリー向け動画を公開しています。

まーちゃん8歳とおーちゃん6歳が【知育菓子・食玩・おもちゃ・妖怪ウォッチ・アンパンマン・メルちゃん・リカちゃん・ガチャガチャ・お出掛け(公園・テーマパーク・水族館・動物園など)・イベント(誕生日・節分など)】などを気ままに紹介しています。

※チャンネル登録者数245万人の人気Youtubeチャンネルです。

スポーツ庁関連情報

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に向けた令和3年度スポーツ庁の概算要求について

スポーツ庁では、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点に立ち、運動部活動が地域、学校、競技種目等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指しています。

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」(参考)で明示された、令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、全国各地域(学校)で実証研究を行いながら様々な課題に取り組むべく、令和3年度スポーツ庁の概算要求において「地域運動部活動推進事業」の実施を計画しています。

生徒にとって望ましい持続可能な運動部活動と学校の働き方改革の両立の実現に向けた取組を実施する予定です。

詳細については以下PDFをご参照ください

【予算の概要】地域運動部活動推進事業(PDF)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/JapanSportsAgency_yosangaiyou.PDF

<参考>

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 スポーツ庁H.P.

(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1405720.htm)

概要 : http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/200901_01_JapanSportsAgency_gaiyou.PDF

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/200901_01_JapanSportsAgency_gaiyou.PDF

スケジュール : http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/200901_02_JapanSportsAgency_schedule.PDF

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/200901_02_JapanSportsAgency_schedule.PDF

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革【本文】 : http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/200901_03_JapanSportsAgency_honbun.PDF

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R2/200901_03_JapanSportsAgency_honbun.PDF

笹川スポーツ財団よりお知らせ

「おうちチャレンジデー（#うちチャレ）」にご協力をお願いします

日本スポーツ協会と同じく日本スポーツ・フォー・オール協議会（TAFISA-JAPAN）の構成団体である笹川スポーツ財団では、チャレンジデー2020の一斉実施中止に伴い、2020年10月と12月に、個人向けの運動・スポーツ啓発プロジェクトとして「おうちチャレンジデー（#うちチャレ）」を実施しております。一緒に楽しいおうち時間を過ごしましょう！

<概要>

- ・名称：おうちチャレンジデー（略称 うちチャレ）
- ・実施時期：2020年10月および12月の各1ヶ月間
- ・参加フロー：
 1. 著名人（現役・元アスリート、お笑い芸人など）が実演するスポーツ動画（10分程度）を見ながら、一緒に身体を動かしましょう。
 2. 参加報告は笹川スポーツ財団のLINEアカウントよりお願いします。
 3. LINEで参加報告した方から抽選で出演者とのオンライン相談会の権利や出演者のサイン入りグッズをプレゼント。

チラシはこちらから

https://www.ssf.or.jp/files/uchiCday_A4_f.pdf

詳細は笹川スポーツ財団 WEBサイトをご参照ください

<https://www.ssf.or.jp/dotank/challengeday/uchichalle.html>

【日本スポーツ・フォー・オール協議会（TAFISA-JAPAN）とは】

公益財団法人笹川スポーツ財団、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、公益財団法人日本スポーツ協会の3団体によって構成され、TAFISA（The Association For International Sport for All = 国際スポーツ・フォー・オール協議会）に加盟し、TAFISA が主催する様々な事業に協力するとともに、国内における生涯スポーツの普及・啓発に取り組んでいます。※TAFISA：1991年に発足したスポーツ・フォー・オールを推進する国際団体で、世界170カ国に320の加盟団体を有しています。

日本スポーツボランティアネットワークよりお知らせ

スポーツボランティア活動の再開について考える

スポーツボランティアサミット オンライン『Re Start!!もう一度、踏み出そう!』を開催します

2020年は、東京2020大会の延期など新型コロナウイルスの影響により、多くの団体やボランティアの活動が停滞し、現在も新型コロナウイルスの感染拡大は、予断を許さない状況が続いています。そんな中でも、徐々にスポーツ活動は再開され始めています。

今回のサミットでは、スポーツボランティア活動を再開（Re Start）するために、現在のスポーツボランティア活動状況に関する調査結果の報告や、既に活動を再開したイベント主催者やスポーツボランティア個人の事例や取り組みを紹介し、参加者全員でRe Startするために必要な準備や心構えを考えます。

また、基調講演にはサッカー元日本代表の巻 誠一郎さんをお迎えし、現役時代に立ち上げた被災地支援活動についてや、スポーツが社会に対して貢献できることをテーマにお話いただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

＜スポーツボランティアサミット オンライン 開催概要＞

【テーマ】 Re Start!!もう一度、踏み出そう！

【日時】 12月5日(土)13:00～15:00

【開催方法】 オンライン開催(Zoomウェビナー)

【プログラム】

(1)基調講演 巻 誠一郎 氏(サッカー元日本代表、NPO法人ユアアクション 理事長)

(2)ディスカッション

・活動を再開した団体、ボランティアの事例紹介

・活動状況調査結果の発表 等

【参加費】 1,000円

【定員】 350名(事前申込制、先着順)

【申込締切】 12月3日(木) 15:00まで

【主催】 NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク

【共催】 NPO法人うつくしまスポーツルーターズ
一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター

詳細、申込はこちら

<https://spovol.net/seminars/detail/?pid=218>